

世界に平和を・戦争の基地はいらない

横田基地ミニ情報 2019.8.25 No.357 東京・羽村平和委員会発行



CVオスプレイ3機が、7月と8月に嘉手納基地に行く

横田基地のCVオスプレイ3機(13-0067,14-0074,14-0075)は、7月22日(月)に岩国基地経由で、沖縄・嘉手納基地に行きました。23日(火)と25日(木)に伊江島補助飛行場で離着陸訓練したり、普天間飛行場に初着陸したり、あちこち飛行して、7月26日(金)に横田基地に戻ってきました。

さらに、8月17日(土)、CVオスプレイ3機(13-0067,13-0071,14-0074)が岩国基地経由で嘉手納基地に行きました。沖縄での飛行状況がよく分からなかったのですが、海外からの情報で、19日(月)

にはフィリピン海で、米空母ロナルドレーガンの艦上で飛行操作をしていることが分かり、21日(水)には、東シナ海でロナルドレーガンに夜間着陸していることがわかりました。そして、24日(土)、CVオスプレイ3機は横田基地に戻ってきました。

CVオスプレイは、危険で厳しい訓練を横田基地など日本全国で行い、米国の特殊作戦でアジアなどで運用されるのですね。



グローバルホーク4機が横田基地に飛来、秋まで一時配備

8月2日、防衛省北関東防衛局より、米空軍グローバルホークの横田基地への一時飛来についての情報提供がありました。

8月5日頃から同年秋頃まで、グアム島のアンダーセン米空軍基地を拠点にうんようしている高々度滞空無人偵察機グローバルホーク4機が横田基地に一時展開されます。

経緯については、「米軍の運用状況を踏まえ、2017年に続き展開する、これは現下の安全保障環境を踏まえた地域における運用ニーズと、運用可能実効的な機数等を踏まえ、安定的・効果的なグローバルホークの運用を引き続き、最大限確保し、もって実効的(情報収集、警戒監視、偵察)活動を継続的に行う観点から、横田基地に一時展開するもの」としています。

横田基地には、8月5日(月)に2機が着陸し、13日(金)までには4機全て飛来したとの情報提供がありました。人員は約80人とのこと。

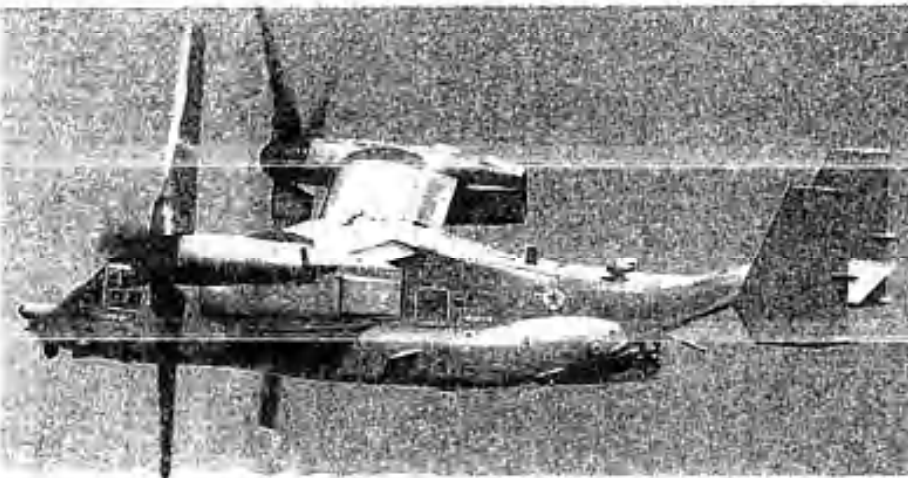


無人偵察機グローバルホーク RQ-4

全長：約15メートル、全幅：約40メートル 滞空時間：約36時間

2019.8.14

昨夏から頻発 住民不安



米軍横田基地周辺を飛行中のオスプレイ。機体デッキに搭載された銃口のよつなものが斜めを向いている。11月4日撮影（羽村平和委員会提供）

オスプレイ 住宅地へ銃口

CVオスプレイが住宅地上空で 機関銃を出して飛行しています。 皆に知らせて、やめさせましょう。

米軍横田基地（東京都福生市など）に配備されている垂直離着陸輸送機CV22オスプレイが、離陸時や周辺住宅地上空を飛行中、機体後部のデッキを開け、機関銃の銃口を下に向けているケースが頻発に起きている。地元市民団体が確認した。米軍側は弾薬を装備しておらず安全に問題はないと強調するが、基地周辺は住宅密集地で、住民からは不安の声が上がる。



横田基地「弾薬は装備せず」

横田基地を監視している市民団体「羽村平和委員会」によると、二〇一八年六月二十九日～今年七月十一日の計三十三日間、延べ四十機が基地周辺の住宅地の上空で、後部デッキから細長い機関銃の銃口を斜め下に向けて飛行していたという。銃口を出したままの飛行は、今月に入ってからも確認されている。

一日につき一機を確認したケースが多いが、二機確認したのが昨年十一月七日、今年六月五日、同月二十七日、七月八日、十一月七日間で、七月以降、増えているという。

六月二十七日は、オスプレイ二機が夕方に二時間ほど横田基地で離着陸を繰り返したり、基地周辺を飛行したりした。二機とも後部デッキから機関銃の銃口が見えたという。

市民団体「横田基地の撤去を求める西多摩の会」代表の高橋美枝子さん（50）は「羽村市」は「住宅地に銃口を向けて、どこに狙いを定めているのか、とんでもないことが行われているのではないかと憤る。

この問題は五月二十日の参院決算委員会でも野党議員が取り上げたが、岩屋総防衛相は「CV22の飛行運用の詳細については把握してい

ない」として、「米国内に安全面への最大限の配慮を求めていきたい」と答弁していた。

対地攻撃想定訓練
軍事評論家の前田哲秀さん

の結、特殊部隊を輸送するCV22は対地攻撃の能力を備えており、それを想定した訓練だろう。日本政府が真摯に申し立てず、配備を認めたこと自体が問題。外務省と防衛省の責任は重大だ。

日本政府が異議も申し立てず 配備を認めたこと 自体が問題。